

本庄川のかわまちづくりについて

山口 貴也

宮崎河川国道事務所 河川管理課（〒880-8523 宮崎県宮崎市大工 2 丁目 39 番地）

大淀川水系本庄川が流れる国富町、綾町でのかわまちづくりに向けた取り組みと河川を通じた地域間の連携、地域づくりへの期待について発表する。

Key Words:かわまちづくり、賑わい、つむぐ、連携

1.はじめに

大淀川水系本庄川は、小林市、国富町、綾町、宮崎市を流れ大淀川に注ぐ、幹川流路延長 16.7km² の一級河川で、大淀川水系最大の支川である、本庄川流域は、四万層群に覆われた急峻な地形を有し、国内でも貴重な照葉樹林帯の中を流れており、九州屈指の清流となっている。



図ー1 位置図

2.かわまちづくりとは

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組である。

3.町の特徴

国富町には、自然豊かな法華嶽公園や国指定史跡の本庄古墳群・農村公園等、綾町には、綾町自然休養村公園・照葉大吊橋・酒泉の杜・三本松運動公園・日本最大級の照葉樹林との調和・共生を目指すユネスコエコパークといった資源も充実している。また、令和元年 10 月には東九州自動車道西都 I C～宮崎西 I C間に位置する国富スマート I Cが開通し、国富町、綾町、宮崎市北西部から東九州自動車道へのアクセスの向上による管区資源のネットワーク形成による効果が期待される。



写真ー1 法華嶽公園
(国富町)



写真ー2 照葉大吊橋
(綾町)

4.整備の必要性

ユネスコエコパーク登録や、『国富 SIC』が開通といった交通アクセスの向上、本庄川（綾北川含む）の豊かな自然環境と新たな観光振興の絶好の機会が訪れているが、現段階において国富町には観光の目玉がない。また、本庄川沿川は、高水敷と水辺へのアクセスが困難な箇所、安全・安心・快適に利用しにくい箇所があることから、水辺空間を生かしたまちづくりが困難となっている現状である。

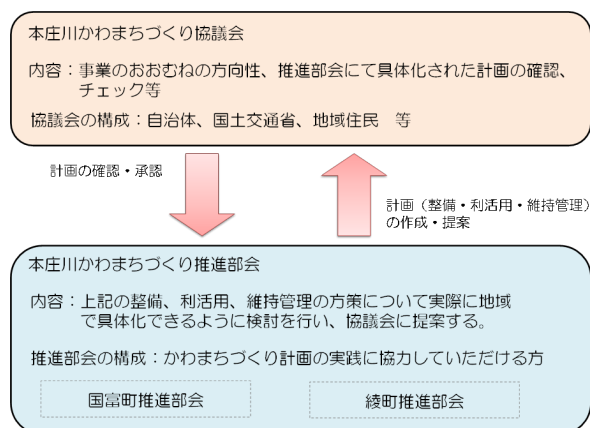
5.かわまちづくりに向けた取り組み

1) 本庄川かわまちづくり協議会・推進部会の発足

令和2年度に地元住民、自治会、商工会、地元団体、漁協組合、学校関係者、国富町、綾町、本庄川の管理者である国土交通省等から構成した「本庄川かわまちづくり協議会」、「本庄川かわまちづくり推進部会」の2つの組織を設置した。

「本庄川かわまちづくり協議会」は「本庄川かわまちづくり」を推進するとともに、計画書の評価や必要に応じて計画の見直し等を行うことを目的とし、「本庄川かわまちづくり推進部会」は整備内容や利活用・維持管理の具体化及び試行等をより実践的に検討することを目的としている。

「本庄川かわまちづくり推進部会」ではより具体的な整備プランや利活用・維持管理の検討を進めている。会議は両町合同で開催しており、推進部会には「子育て世代」の方々が数多く参加されており、家族みんなが安心安全に利用できる施設の実現に向け、取り組まれている。（現在：推進部会4回開催、協議会2回開催）



図一 本庄川かわまちづくりの推進



写真一 本庄川かわまちづくり推進部会の様子



写真二 本庄川かわまちづくり協議会の様子

2) コンセプトの決定

本庄川の声聴き、 国富町・綾町をつむぐ、かわまちづくり

本庄川は、国富町・綾町の地域交流の場や水辺とのふれあい・憩いの場として親しまれるとともに、地域の原風景の一つとなっており、国富町には自然豊かな法華嶽公園や国指定史跡の本庄古墳群、綾町には日本最大級の照葉樹林との調和・共生を目指すユネスコエコパークといった資源も充実している。

“本庄川（かわ）”と“町の資源（まち）”に加えて、両町が連携し、水辺での交流や賑わいのある空間とするため上記のコンセプトに決定した。

3) 検討内容

地域のニーズを踏まえ、本庄川かわまちづくりの整備対象箇所は下図のとおり、5箇所（①塚原橋～太田原橋（国富町）、②本庄橋周辺（国富町）、③森永橋周辺（国富町）、④三本松～上畑橋周辺（綾町）、⑤小田爪橋周辺（綾町））を選定。

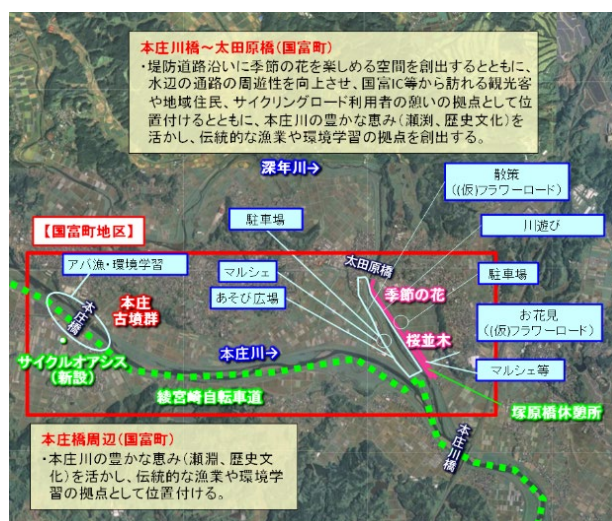


図—3 本庄川かわまちづくり整備対象箇所

・国富町

国富 SIC に近くアクセス性もよい本庄川合流部を“本庄川かわまち”の玄関口と位置づけ、桜並木や季節の花の空間、軽トラ市等のイベント等を開催することにより、

「観光の目玉」の創出を目指していく。加えて、本庄川の豊かな恵み（瀬淵、アバ漁等）を活かし、伝統的な漁業や環境学習の拠点として位置付ける。



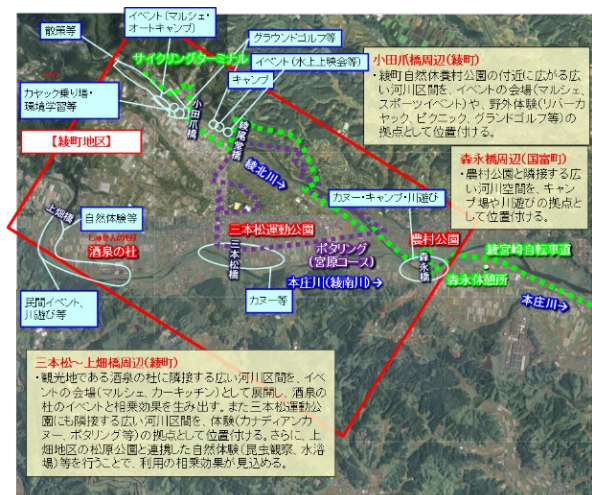
図—4 国富町構想イメージ図



図—5 国富町構想イメージパース

・綾町

綾川荘、酒泉の杜、綾ユネスコパーク周辺には、県内外から多くの観光客が訪れており、綾北川から本庄川の豊かな自然を活かし、新たにカヌー、オートキャンプ等の多様な自然体験ができるメニューをつくり観光客のさらなる集客を図る。



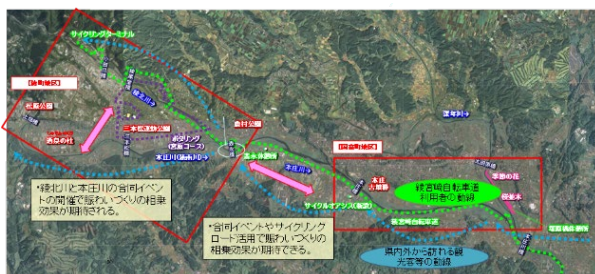
図一6 綾町構想イメージ図



図一7 綾町構想イメージパース

・両町連携

県内外から訪れる観光客を新たな水辺拠点（観光スポット）へと誘う工夫を行っていくとともに、季節の花や自然体験等の体験型観光を楽しんでもらえるよう、国富町と綾町を結ぶサイクリングロードや本庄川周辺の資源を活用し、両町が連携した取り組み（合同イベント等）を展開する。



図一8 両町連携構想イメージ図

3) 社会実験

地域におけるにぎわいの創出、まちづくりまたは道路交通の安全の確保等に資するため、社会的に影響を与える可能性のある施策の導入に先立って、関係行政機関、地域住民等の参加のもと、場所や期間を限定して当該施策を試行・評価し、もって新たな施策の展開と円滑に事業を執行することを目的とし、社会実験を実施する。現在は国富町、綾町各町ごとに実施したが、今後本庄川を位置付けとして両町合同での社会実験を計画していきたい。

・社会実験結果

企画①：花植えによる景観づくりの勉強会（国富町、綾町）、マラソン試走会（綾町）※同日開催

令和3年4月4日（日）に、本庄川（綾北川、綾南川）の利活用（魅力探し、景観づくり）に係る社会実験として、花植えによる景観づくりとマラソン試走会を実施した。かわまちづくり推進部会委員や綾町を中心に、社会実験の内容を企画し、花植えの勉強会には70名、マラソン試走会には100名以上が参加した。また、河川敷沿いで、音楽フェス&キャンプイベントが開催され、25名が参加した。



写真—5 花植勉強会



写真—6 マラソン
試走会

企画②：こいのぼりによる景観づくり（国富町）

・令和3年5月1日（土）に、本庄川（深年川）の景観づくりに係る社会実験として、河川敷にこいのぼりを設置した。かわまちづくり推進部会委員、国富町を中心に、社会実験の内容を企画し、設置には16名が参加した。こいのぼりは5/1～5/31の期間常設し、現在アンケート調査を実施している。



写真—7 こいのぼり 写真—8 記念撮影
設置

4）維持管理

かわまちづくり事業を進めるにあたり、避けては通れないのが整備後の維持管理である。行政と地域住民が一体となって整備や維持管理を行っていくものとし、自治体のボランティア支援制度の活用、日常的な維持管理は利用者が行う原則のもと利用者ルールの設定を行うなど、継続的な維持管理体制の検討を行う予定である。将来的には、協議会、推進部会メンバーの有志からNPO法人を立ち上げ、維持管理のみではなく、水生生物調査や河川愛護イベントの開催等さらなる発展を目指していきたい。



写真—9 水生生物調査(イメージ)

5）今後について

現在は計画申請の段階だが、計画登録後（予定）はより一層、整備内容や利活用のあり方について、協議会・推進部会等により議論していく。しかし、新型コロナウイルスの影響で大人数での会議が難しいため、Webを使ったリモート会議等を利用して、対面での会議を継続していきたい。

同時に、できる限りでの社会実験を行い、老若男女、多数の方から様々なニーズを収集し、事業に反映させていきたい。

今後も、“かわ”と“まち”、“国富”と“綾”すべてをつむぐかわまちづくりのため尽力する。